



榎 原 チャレンジ! 一歩へ

下郷町立榎原小学校
学校だより No.21
令和2年 7月28日
文責:校長 酒井 健

◇様々な制限がある中で、子どもたちの「確かな成長」が見られます。

例年になく梅雨が長引いている今年度ですが、あと数日で1学期が終了し、子どもたちが楽しみにしている夏休みが始まります。きっと8月に入ると、この雨雲もすっかりとなくなり、夏らしさがやってくると思います。

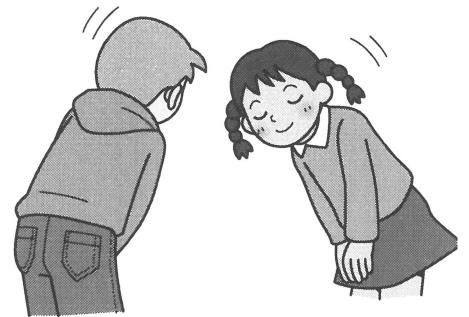
さて、保護者の皆様にぜひお伝えしたいことがあります。

それは、子どもたちのあいさつがとてよくなってきたということです。朝、校門に立っていると、登校した6年生がかばんを置いて、駆け足で校門に集合します。また、その他の学年の子どもたちも校門に集まり、みんなで「おはようございます」のあいさつ運動がスタートします。

「素晴らしい光景だな」と心底感じます。子どもたちの明るく、元気なあいさつは、雨が降っていようと、風が吹いていようと、気持ちをさわやかにしてくれます。

全校生のあいさつが、日に日に向上していくことに大きな喜びを感じています。

先日は、1年生の男の子が、登校後、校門に走ってきて、「校長先生、さっき、自分からあいさつをする前に、校長先生からあいさつをされたので、今、もう一度、自分からあいさつをします。おはようございます。」とってくれました。素晴らしいですね。



校長のひとりごと

「夏の風物詩」と言えば、風鈴、花火、スイカ割り、ひまわり、入道雲・・・たくさんありますが、私の「夏の風物詩No.1」は、日暮(ヒグラシ)です。夏の夕暮れ時に、どこからともなく聞こえてくる「カナカナカナ」「カナカナカナ」・・・心が落ち着きますね。

また、以前、山形県の山寺に行った時も、階段を上がるのに疲れ果て、途中の茶屋で玉こんにゃくを食べていると、「カナカナカナ」「カナカナカナ」という日暮の声が聞こえ・・・、体に清涼感が増していったという経験もありました。まさに、「閑さや 岩にしみ入る 蟬の声」でした。

最近は、学校の周りでも、朝から夕方までセミの合唱が響いています。季節は真夏ですね。今年の夏休みは、例年よりも少し短くなってしまいましたが、子どもたちは、どんな「夏の風物詩」と出会うことでしょう。

